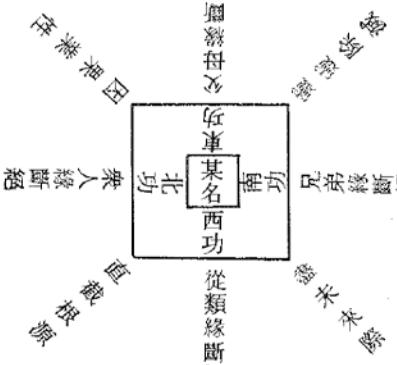
八、非人癩病狂死者引導法幷符（6ページ以下の「解説」を必ず参照のこと）

先ヅ其世具雜物衣裳刀杖等共ニ送リ捨テ、其身ヲ非人乞食ノ者ニ度スニ法アリ、弓ノ弦ニテ男ナレバ左ノ腕、女ナレバ右ノ腕ヲククリ非人ニ渡シ引動カシタル時、子ヲ持タザル者ニ後手ニ弦ヲキラスルナリ、其刀ニ身ノ代ヲ相添テ送ル時ノ文ニ曰ク「因果業性靈靈除滅　盡未來際　直截根源」此ノ文ヲ書シテ屍ニ添ヘ、又ハ其出シタル門ノ階下ニ埋テ、ソノ後常ノ人ニナシテ引導スベシ、其ノ屍ヲ導師ノ風上ニ置クベカラズ、導師棺ニ向テ唱テ曰ク「汝元來不生不滅　無父無母無兄弟　此土身去再不來　輪廻顚倒直斷絶」

（此語ヲ直ニ下火ノ語ニ用ヒ唱フルモ亦可ナリ、皆當人ノ力ニ依ル也、天蓋幡ハ皆黑色ヲ用ユル也）



コノ符ヲ調ヘテ七日ノ間導師ノ居處ニ布ク、ソノ親兄弟ハ百日ノ間此符ヲ身ニ添ヘテ離サザルナリ、供養ノトキ常ノ人ト替リ回向文ナキナリ。

著者・杉本俊龍師解説文（7ページ以下の「解説」を必ず参照のこと）

【解説】非人は天龍夜叉惡鬼等の鬼畜を總稱するので、經中に人非人とある。もとは鬼畜の名であるが、今は人にして鬼畜に等しい生活をするものを云ふ。昔より非人乞食穢多と呼んで、賤民の最下級は非人であつた。德川時代に於ては民衆の階級が嚴然としてゐて、士農工商は非人等の賤民とは交際しなかつた。また非人の死亡には葬儀は許されなかつた。然し非人にはゆゑある武士がよく落ちてゐたので、ために非人を脫せしめて葬むることが必要であつたのである。また死靈の祟りを恐れたので、自分の門前で死んだ非人が祟らぬ斷絶法が必要であつた。ために弓弦での緣切法（古來の風習）をやり、父母兄弟親類社會等と絶緣する符をつけ、また眞實の親も非人とは交際せぬ意味から、斷絶符を百日つけたのである。そして惡業性の因果をすつかり除滅して、盡未來際根源をたち截つてしまつたと云ふ語を屍に添へたのである。今日はその必要がないが佛家の慈悲心發露の一端として、非人に引導を授けた證査であるから殘しておいてもよい。